

横浜医療情報専門学校

令和元年度学校関係者評価会議事録

日時	令和元年 8 月 27 日(火) 15 : 00 ~ 16 : 00	
場所	横浜医療情報専門学校 3 階 セミナー室	
参加者	学校関係者評価委員	中村 ふじ (神奈川県総合教育センター 人材育成課 教育指導員)
		真野 誠 (日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 シニアマネージャー)
	本校教職員	小松 加代子 (教務部 部長)
		鈴木 和江 (教務部 課長 : 医療事務科 学科まとめ)
		平塚 智文 (教務部 課長補佐 : 医療 IT 科 学科まとめ)
寛 保夫 (教務部 課長補佐 : 医療事務科 2 年生まとめ)		
資料	<ul style="list-style-type: none">・自己点検評価表・当日説明用スライド資料・平成 30 年度 学校法人岩崎学園 教育成果発表会 ビデオ映像	

<議論の要旨>

1. 学校関係者評価会実施にあたって

- ・「職業実践専門課程」の設置ガイドラインの中に学校評価として「自己点検評価」、「学校関係者評価」を行うことが規定されている。今回実施するのは内部で実施した自己点検評価を踏まえた学校関係者評価である。

評価委員の方々に、専門学校教育を理解する場として頂くと共に、同課程設置にあたって外部評価が重視されている事も踏まえ、現場からの様々な意見を頂きたい。

2. 平成 30 年度総括と自己点検評価における課題と改善方策（小松）

I 平成 30 年度総括

- ・文科省ガイドラインに沿って自己点検評価を実施した。各項目において、目標は概ね達成することができた。目標として掲げた指標において、出席率、医療事務科 1 年次の診療報酬請求事務能力認定試験の合格率、医療 IT 科内定先企業の初任給の評価項目については、目標を上回ることができている。また、昨年度より取り入れた PROG テスト評価も本校入学後に伸ばすことができた。一方で、退学率が目標は達成したものの例年に比べ高くなってしまったほか、医療 IT 科の 1 年次基本情報技術者試験の合格率の目標未達という結果となった。

II 自己点検評価における課題と改善方策

- ・教育理念・目標（1-5）

（課題）

学校の教育理念については、入学前に学生、保護者とも入学案内パンフレットを使用して説明しているが、入学後に学生全体に周知する機会は設けられていない。

（改善方策）

保護者宛文書を、従来の紙媒体からデジタル（Web 閲覧）にするとともに、常に学校の教育理念や学科の特性が確認できるページを作成し提供する。

- ・教育活動（3-16）

（課題）

前年度からの継続案件として、人材育成目標に向けた授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保が課題となっている

（改善方策）

専門分野に対応した教員の確保に努めているほか、技術的なスキルは十分でも、学生に対する指導力が不足しているケースがあるため、研修等を通じて教員のスキルアップを図っていく。

3. 平成 30 年度の各学科の取り組み

- ・医療 IT 科（平塚）

例年同様、学外で開催されるコンテスト・展示会に出場する機会を設けてきた。「もっと復興～もふっこ大作戦～」が総務省主催のビジネスモデル発見&発表会 全国大会に出場したほか、「自宅警備戦隊 ペんぺんじゃー」が学内の ISC プログラミングコンテストに入賞している。

学生は考えないのではなく、考え方がわかっていないという観点に立ち、遊びながら考える仕組みとして「ミニ四駆」をいかに速く走らせるかという演習を取り入れ、論理的思考の向上に努めている。

・医療事務科（鈴木）

昨年度に引き続き、1年次での資格取得率 100%を達成した。資格取得は、学生本人だけでなく保護者からも求められる専門学校の大きな評価軸のため、6月までは本校の目標資格である医療秘書技能検定、6月以降は学生の習熟度に応じた PC の資格取得を進めてきた。無資格者 0 人を目指した指導により、学生全員が資格を取得することができた。

岩崎学園 7 校で行われる「教育成果発表会」に、病院・ホテル・消防局等との外部連携により診療情報シートの作成に取り組んだ医療事務科の学生が出席し 2 位を獲得した。日本赤十字社との連携による卒業研究を行うなど、引き続き外部連携による主体的な学習を進めていきたい。

・学校生活全般（小松）

学生主体のイベントは例年と同様に盛んに行われており、クラブ・サークルが積極的に活動できるような学校としてサポートしている。日産スタジアムで行われたテロ対策訓練、横浜ランドマークタワーでのスカイクライミング等でのボランティア活動にも多くの学生が参加している。

一方で、4年制の医療 IT 科における学生指導が課題としてあげられる。4年制課程のゆとり、少人数クラスという利点が逆に作用してしまい、競争力やチャレンジ精神を伸ばすことを阻害している。学外活動に積極的に誘導することで、彼らの本来持っている力を伸ばしていきたい。

4. 令和元年度の目標（小松）

- ・令和元年度の重点項目として「他校を圧倒する専門力」「教育データの活用」「地域・年齢・レベル・国籍の拡大」「新たな産学連携の展開」「教職員の働きがい向上」の 5 項目を掲げている。中期計画として掲げたもののため、昨年度からの継続目標である。業務目標は定量評価ができるよう数値化しているが、今年度は医療 IT 科の資格取得目標を医療情報技師合格率 40%としている。
- ・今年度は上記に加えて、医療機関との連携強化に向けた講座実施に注力していきたい。多くの医療機関・関連企業と連携することでブランド力向上を目指すほか、18 歳人口が減少する中で伸び悩む入学者以外の収益の確保と地域社会への貢献を目指している。現在、横須賀共済病院から 50 名の病院職員を対象としたクレーム対応講座の開講を打診されており、こうした活動を広げていく予定である。

<質疑応答・意見交換>

【医療 IT 科の教育について】

- ・基本情報技術者試験の目標合格率を 55%とした平成 30 年度の目標は高すぎたのではないかと。根拠のない目標設定は意味がないと思われるが如何か。（真野）
⇒ 姉妹校の情報科学専門学校と共通化している教育カリキュラムが多かったため、姉妹校の実績を鑑みての目標設定とした。令和元年度は目標資格を本校独自の医療情報技師に変更した。（小松）
- ・資格取得の教育にあたっては「十分に合格できる層」「もう少しで合格できる層」「かなり頑張らないと合格できない層」「全くできない層」のいずれにターゲットを置いて支援をするのかをあらかじめ考えておく必要がある。ターゲットのとらえ方によって指導方法が全く異なるものになる。合格率を高めるのであれば「もう少しで合格できる層」をターゲットに教育内容を検討したほうがよい。（中村）
- ・外部機関との連携については、例えば神奈川県未病プロジェクトとの連携を模索してはどうか。発生した問題を解決するタイプの研究もいいが、「予防（未病）」の観点に立った取り組みがあってもいいと思う。（真野）

【教育成果発表会について】

- ・せっかく作成した「診療情報シート」を様々な人に活用してもらうためには大棧橋ふ頭に設置してもらうことを検討してはどうか。たくさんの外国の方が利用されているので、役立つのではないか。(真野)
- ・「診療情報シート」の色遣いについては再確認したほうがよい。色のバリアフリーに対する視点が抜けているような気がする。使用されている水色、黄色は人によっては全く識別できない可能性がある。(中村)

【学校の取り組みについて】

- ・保護者宛文書をデジタル化する件については、保護者からのフィードバック機能をつけ、双方向でやり取りできたほうがよい。これまでとは異なり、保護者との随時のコミュニケーションが可能になる。(真野)
- ・学校設立後、何十年と経過していることから、卒業後 10 年、20 年といった卒業生に集まってもらい、学校教育の何が役立ったか、何が必要だったかを検証する時期に来ているのではないか。卒業生だからこそ忌憚のない意見を寄せてくれると思う。(中村)
⇒ 岩崎学園として、3 年ごとに卒業生の就職先と本人にアンケートを取っており、役立ったカリキュラム、必要なカリキュラムの調査をしている。ベテランの卒業生にも対象を広げ、情報収集を行うことを検討していきたい。(小松)
- ・タイプの異なる学生に対して 1 つの教え方では対応できない時代になっており、教員は指導力向上のための研修などに積極的に参加する必要がある。また、上位 25%の積極的な学生にターゲットを絞った教育方法をとるとトップガン人材の育成につながるのではないか。さらにはそのトップガン人材が学校ブランド力を高め、学生全体の帰属意識と全体の底上げにつながると考える。(中村)
- ・学校は建物・機材・人材という財産が揃っており、学生以外に対しても財産を活用することを考えるのは大変良いことだと思う。地域に根差した教育機関として、企業内研修を十分に行えない中小企業向けの再教育講座や高齢者向けの教育も検討してはどうか。(中村)

短い時間ではありましたが、委員の皆様から頂いた貴重なご意見をより良い学校運営を行うために活かしていきたいと思っております。本日はありがとうございました。(小松)